





### 父親による…性暴力



篠原鋭一 しのはらえいいち  
昭和19年生まれ。千葉県成田市・曹洞宗・長寿院住職。NPO法人「自殺防止ネットワーク・風」理事長。

篠原住職の寺は「自殺防止の駆け込み寺」と呼ばれ、20年間にわたり24時間、相談の門戸を開いている。  
「明日死のうと思えます……」  
そんな電話が毎日3〜5件、土日には10件以上もかかってくる。  
今回は、『本当の話』（興山社）に掲載された篠原鋭一師の一文を、ご紹介したい。

### 15歳の春……

■数年前、深夜に幾度か「早く消えてしまいたい」と電話で訴えて来たK子さんから、絵画展の案内状が届く。個展ではなく、10人共催とのこと。

そういえば、彼女はイラストレーターになりたいと言っていた。かつて自死に向かうとしていた彼女が、自作を出品したということは、現実

大晦日の「除夜の鐘」では参詣者に甘酒を振る舞いました。作り方をまとめましたので、ご家庭でもいかがですか？

●2種類の甘酒  
甘酒は製法により、①麴の甘酒と、②酒粕の甘酒に分けられます。麴とは蒸した米などに麴カビを繁殖させたもので、酒粕とは清酒を絞った時の残りカスです。

●製法の違い  
①麴の甘酒は、お粥に麴を混ぜ、55℃〜60℃で一晩（10時間程度）保温して作ります。1合の米に3合分の水でお粥を作り、乾燥麴200gを合わせるのが目安です。

### 寒い季節に、手作りの甘酒はいかが



麴の酵素がでんぷんを糖化して甘くなります。炊飯器の調理モードを使えば保温が簡単です。

②酒粕の甘酒は、鍋でお湯を温めながら酒粕と砂糖を溶かして作りおきます。酒粕の重さの3倍のお湯が目安です。砂糖はお好みで調整ください。酒粕は溶けづらく、前日から水につけておくか、ミキサーで粉砕することをお勧めします。

### 見習い僧のコーナー

#### ●オススメの楽しみ方

①麴の甘酒は、お粥をでんぷん質の他のモノで代用することで様々な味が楽しめます。個人的にはサツマイモ甘酒がオススメです。  
②酒粕の甘酒は、牛乳かショウガ汁を合わせると、美味しく召し上がれますよ。

●味わいの違い  
①麴の甘酒は優しい甘さでお米の味を感じます。  
②酒粕の甘酒は、酒粕の風味により、お酒の香りと味のキレを感じます。

●成分の違い  
①麴の甘酒はアルコールを含みませんが、②は酒粕を使用するため、若干アルコールを含みます。

### 母の再婚

### アルコール依存症の両親 その元での悲劇

の作品の前に立ち問いかけた。「この2枚がK子さんの作品ですか」  
彼女が黙ってうなずく。  
紙の大きさがいえば両方ともA3だ。額には入っていない。むき出しのキャンバスに描かれた水彩画。  
真つ黒の背景を切り裂くように悲しい瞳の少女が見つめている。題名を見ると『臨死体験3D』と記されていた。点のような口元は、何も語ることのできない悲痛を訴えているのだろうか？  
となりのキャンバスに目を移す。1枚目と同じように、漆黒のやみに少女の顔。けれど瞳がちがう。眼は閉じられ、目じりから真つ赤な

■彼女が19歳の時、再び彼女を悲劇が襲う。義父は実父

涙が幾筋も流れ、暗黒を鋭く切り裂いている。口は一文。題名が気になった。そこには朱色で『99のちのなみだ』と、悲しみを激しく投げつけるような文字で書かれている。K子さんは無言で私のそばに立ち、うつむいているばかりだ。私も、他の作品を観ることなく、彼女の絵の前から離れなかった。  
K子さんが心の奥に秘め続けていた体験を、電話で語ってくれた日からもう3年は過ぎていたのだろう。

■15歳の春。アルコール依存症の実父が、我を忘れて彼女に襲いかかった。毎日のように暴力を受けていた母は何も言わずに、虚ろな目で見て

よりも増してアルコール依存症だったのだ。母もすでに同病であり、昼夜を問わず2人は酒びたり。そして同じことが起こる。  
深夜、K子さんの部屋へ押し入った義父が激しく抵抗する彼女を平手打ちして倒し、暴行を加えたのだ。  
真夜中に、K子さんは家を出る。逃げるしかない。その日から彼女は飲食店の住み込みスタッフとして生きようとしたが、次々に男が寄ってくる。一人の男性が告げた。  
「あんた、おかつば頭が可愛いね。未成年なの？ オレが守ってやろうか！」  
■苦悩に満ちた生活が続いた彼女が、生きることをあきらめて、両手にナイフを入れたのは21歳の冬の日。クリスマススイブの日のことだった。

### 編集後記

■昨年「本照寺だより」新年号は、前年8月27日の母死去によりお休みでした。そして一周年も終え今年も三周年。歳が重なることを実感します。人、片や去り、人、片や生まれ……。そう、その言葉通り昨年11月21日、長男の第一子が誕生。男子です。依って孫3人のジジとなった次第。名は慧磨が、猪瀬直樹・前東京都知事らがIOCへ提出した公文書（英文）に、「7月〜8月の会期はマイルドで……アスリートたちがベストのパフォーマンスを見せることのできる理想的な気候」と表現している文章を、ロバート・ホワイティング氏が見つけ「思わずあごが落ちそうになった」と、『夕刊フジ』平成26年4月23日付に書いています。無理は承知のつもりだが、何とか秋に移動出来ないものか……

いるだけ。その日、実父は家を出、今も行方不明である。  
その後、K子さんの知らない所で離婚が成立しており、母は他の男性と再婚。お金を得る手段を持たないK子さんも、同居せざるを得なかった。

「誰もが幸せに見えました。この世で私が一番不幸だと思えました……」  
瀕死の彼女を発見したのはアパートの家賃を集金に来た大家さんの奥さんだった。救急車の中でK子さんは願う。  
「これで終わりになる。私の苦しみも今日で終わる。死なせて！」  
しかし、彼女は生きのびた。そして、退院した彼女を待っていたのは大家さん夫妻……

### 「菩薩さま」

■「私たちには子どもがいない。過去を忘れて、私たちの養子になってくれないか。私たちが生きて行こう。家族になろうよ。ね、ね、そうしよう」

養子縁組が成立した時、K子さんは、夢のようだと喜んだ。けれども今、彼女はトラウマで苦しんでいる。夜になると、過去の情景が浮かんでくるという。  
■画廊で、私のそばに初老の男性が立って、彼女に告げた。  
「この絵の買い手は私だ。私の倉庫にしまっておこう。さあ、今日からは、うんと明るい笑顔の少女を描いてよ！」  
彼女が大粒の涙を落としながら、幾度も頷いて答える。  
「お父さん、ありがとう……」

その男性はK子さんが養子縁組で得た、新しいお父さんだと紹介される。  
私はお父さんに申し出た。「絵のもう1枚は、私に譲ってくださいませんか？」  
数日後、『99のちのなみだ』という絵が届いた。もう一度よく見ると、瞳から流れる血筋は同じだが、短く切られている。K子さんから「このなみだは、もう止まった」との知らせにちがいない。  
K子さんを養女に迎えた「菩薩さま」との生活は穏やかに続いている。